

札幌農学校の理念と人脈

独自の学風はどのようにして生まれたのか

東京家政大学名誉教授

山本悠三著 四六判ソフトカバー160頁 本体 1,600円 ISBN978-4-8295-0782-7

山本悠三 (やまもとゆうぞう)
1947年生まれ。2018年東京家政大学定年退職。現在、東京家政大学名誉教授、博士(文学)。専攻は歴史学・農政学。
著書に『近代日本の思想善導と国民統合』(校倉書房)、『足尾鉍毒事件と農学者の群像』(随想舎)、『近代日本社会教育史論』(下田出版) ほかがある

日本の近代化の推進力となる優秀な人材を輩出した札幌農学校の創立から明治30年代までの発展の歴史を描く

開拓使仮学校(明治5年)を母体に創立された札幌農学校は、その名称にかかわらず、理学・工学・法学などの広範な領域の講義を行い、政界・官界・実業界に進んだ卒業生も少なくない。こうした農学校らしからぬ独自の学風はどのようにして生まれたのか?



1879(明治12)年の札幌農学校全景

- 第一章 札幌農学校の創立前史
 - 一、開拓使の設置
 - 二、学校設立に至る複数の構想
 - 三、開拓使仮学校の創設
 - 四、ケプロンとアンチセル
 - 五、クラークの着任
- 第二章 札幌農学校の展開と人脈
 - 一、学生募集と一、二期生
 - 二、講義内容 マサチューセッツ農科大学との比較
 - 三、初期の卒業生の動向
 - 四、『北海道三県巡視復命書』の提出
 - 五、佐藤昌介の対応
- 第三章 卒業生の多彩な研究領域
 - 一、広井勇と土木工学
 - 二、宮部金吾と植物学
 - 三、新渡戸稲造と農政学、植民学



クラーク
初代教頭



佐藤昌介
1期生
後に北海道帝国大学初代総長



内村鑑三
2期生
思想家



新渡戸稲造
2期生
教育者



宮部金吾
2期生
植物学者

専門教育と教養教育の統合をいち早く進めた札幌農学校のあり方は、これからの大学に求められているものを示唆している

2月上旬 新刊搬入予定です

配本部数申込締切は 1月17日(金) です

FAX 03-3813-4615

芙蓉書房出版

〒113-0033
東京都文京区本郷3-3-13
http://www.fuyoshobo.co.jp
TEL. 03-3813-4466
FAX. 03-3813-4615

| | | |
|----------------|-----|-----|
| 発行 芙蓉書房出版 | 注文数 | 注文者 |
| 札幌農学校の理念と人脈 | | |
| 2月新刊 本体 1,600円 | 部 | |